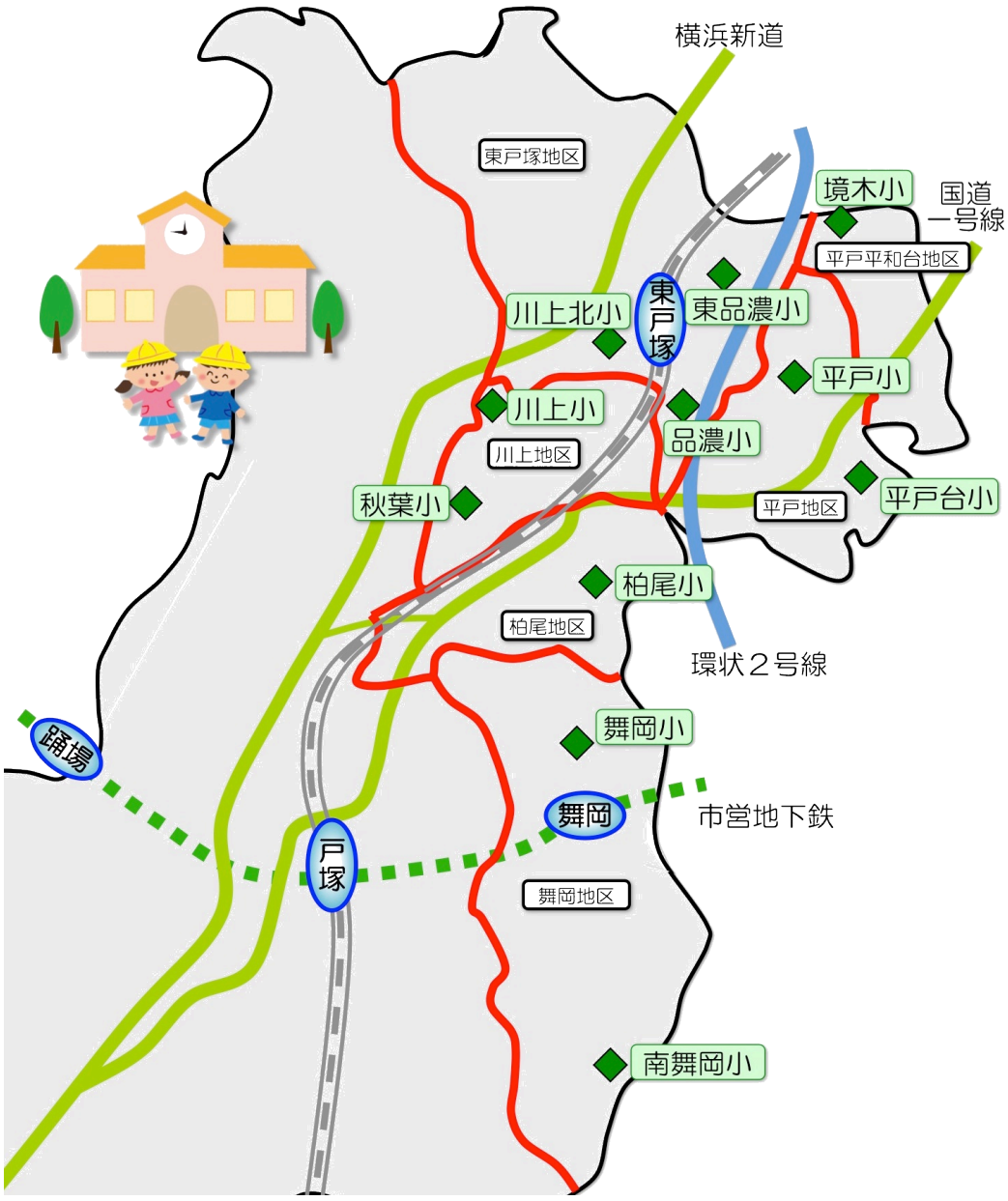
# Ⅳ　地域学校編

この編では、明治２５年(1892)に創立され、本年平成３１年で１２８年を迎える川上小学校に視点を当て、現在の校長先生のお話し、川上小学校の沿革、卒業生による昭和３０年代の学校生活の紹介、そしてこの学校を支えた先生方について纏めてみました。

また、昭和４４年に現在の秋葉町の地に新しい校舎が完成し移転した際、古い資料や写真などを「茶箱」に収めて引き継ぎましたが、今回その中からいくつかの写真や資料を紹介させていただきます。

更に、現在ではこの旧川上地区に１１校に及ぶ小学校群がありますが、その分離独立の流れについても触れてみることに致します。

旧川上地区の現在の小学校群



## １.「川上の 100 年史」の発刊に寄せて

横浜市立川上小学校
第２３代校長　倉本　惠

このたびは「川上の１００年史」の発刊、まことにおめでとうございます。「柏尾の１００年史」に続き、川上の１００年史が発刊されることを心待ちにされていた方もたくさんいらっしゃることと思います。ご縁があり、ここに関わらせていただくことができた私はとても幸運を感じております。

平成２８年度に川上小学校は創立１２５周年を迎えました。第２３代校長として私が本校に在籍している間に、１３０周年に向けて少しずつ準備を進めていきたいと考えていたところ、日頃よりお世話になっている川上連合町内会長　田中　猛　様より、「川上の１００年史」の編纂委員会が設立されたこと、また、その編纂の中心になられている柏尾連合町内会長　齋藤　純一様が、本校の卒業生であることを伺いました。

本校には代々引き継がれた「茶箱」が、鍵のかかる部屋に大事に保管されています。その中には、本校の歴史を物語る貴重な写真や資料が、たくさん入っています。「川上の１００年史」編纂に、この茶箱の中のものを「まちの宝」として使いたいというお申し出がなければ、私の想定する１３０周年への準備も一歩が踏み出せないまま次年度を迎えることになってしまっていました。渡りに船とはまさにこのこと、齋藤様との出会いに感謝する次第です。

川上小学校から分かれた柏尾小学校、川上北小学校、平戸小学校、秋葉小学校を代表して若輩の私が、このページを書かせていただくことは、身に余る光栄です。

私が秋葉小学校で副校長を務めさせていただいたことも、なにかのご縁に違いないと思いつつ、改めて川上小学校の歴史の重さを感じています。

最後になりましたが、編纂に関わられた多くの方々にお礼申し上げます。また、子どもたちの学習のためにと、「川上の１００年史」を寄贈していただいたことをこの場を借りてお礼申しあげます。未来を担う子どもたちが、川上の街と共にますます発展していくことを祈念しております。

## ２．川上小学校の沿革

明治 6. 5.18　　柏岡学校開設　舞岡村笠井下
明治 6. 5.18　　増威学校開設　鎌倉郡秋葉村法善寺に設ける
明治 8. 7　　増威学校より平戸学校分離　平戸村植松寺（じきしょうじ）に設ける

| | |
|---|---|
| 明治 10. 5 | 平戸学校を敬護学校と改称 |
| 明治 23.10. 1 | 柏岡学校を尋常正進小学校と改称　舞岡 77 番地 |
| 明治 25. 3. 1 | 敬護学校を尋常敬護小学校と改称　平戸 728 番地 |
| 明治 25.10. 1 | 高等川上小学校開校　位置は川上村上柏尾小字台 |
| 明治 34.12. 7 | 高等川上小学校は類焼の厄(やく)を被り、全建物を焼失<br>前山田蓮久寺を仮校舎にあて授業を継続 |
| 明治 36.12. 1 | 尋常高等川上小学校と改称（川上村下柏尾小字殿谷に校舎新築　木造、瓦葺、平屋建 5 教室）<br>正進小学校を南部分教場、敬護小学校を北部分教場とする |
| 大正 12. 4. 1 | 川上尋常高等小学校と改称 |
| 大正 12. 9. 1 | 関東大震災のため、新校舎は倒潰、両分教場も半潰の状態になったので二部授業を行う |
| 昭和 14. 4. 1 | 横浜市立川上尋常高等小学校と改称<br>川上村が横浜市に編入、同時に秋葉町が校区に編入（中川小より） |
| 昭和 14. 4. 3 | 正面玄関際に二宮金次郎の銅像建設 |
| 昭和 16. 4. 1 | 横浜市立川上国民学校と改称 |
| 昭和 18. 8.13 | 電話架設 |
| 昭和 20. 4.26 | 空襲のため集団教育が危険になり、分散二部授業行なう<br>本校組（本校・王子神社)、北部組（分教場・東福寺・品濃集会所）南部組（分教場・円福寺） |
| 昭和 20. 8 | 初等科 5 年以上の分散教育を廃し、本校において授業する |
| 昭和 20.11. 5 | 校舎・教室の整備を急ぎ、二部授業を撤廃する |
| 昭和 22. 4. 1 | 横浜市立川上小学校と改称　修業年限は 6 か年となる |
| 昭和 27. 5.20 | 給食調理場設置 |
| 昭和 29. 3.30 | 水道架設 |
| 昭和 29. 5. 9 | 校舎新築落成<br>木造、スレート葺 2 階建校舎（教室 4、防火扉つき、物置、階段を含めて）53.6 坪　新校舎昇降口取り付け |
| 昭和 41. 6.30 | 南部分校を廃止 |
| 昭和 41. 7. 1 | 横浜市立川上小学校柏尾分校開校 |
| 昭和 43. 9.30 | 北部分校を廃止 |
| 昭和 43.10. 1 | 横浜市立川上小学校北分校開校 |
| 昭和 44. 4. 1 | 柏尾分校は横浜市立柏尾小学校、北分校は横浜市立川上北小学校としてそれぞれ分離独立する |
| 昭和 47. 4. 1 | 横浜市立平戸小学校開校（平戸町を平戸小学校区に分離） |
| 昭和 47. 6.19 | 川上小学校新校舎建設　秋葉町 203 の 2 番地となる |
| 昭和 60. 4. 1 | 秋葉小学校同居開校 |
| 昭和 60. 7. 1 | 秋葉小学校移転　戸塚区秋葉町 392－1 |
| 平成 3.11. 9 | 創立 100 周年記念式典挙行 |

（川上小学校創立 100 周年記念誌から抜粋）

## ３．昔の「川上小学校」の思い出

今年、平成３１年から遡る事１２８年前、明治２５年(1892)に「旧川上小学校」は創立されました。「旧川上小学校」と書きましたのは、現在の横浜市立川上小学校との混同を防ぐためです。

私は、昭和２２年９月に戸塚区柏尾町に生まれ、昭和２９年に旧川上小学校に入学しました。当時の川上小学校は秋葉町ではなく、柏尾町にありました。柏尾町のどこにあったかというと、現在の山崎製パン横浜第一工場の前、「ことは保育園」のところにありました。

昭和３０年当時の川上小学校は木造２階建てのとても古い校舎でした。ここに当時の写真が見つかりましたので紹介しておきます。

旧川上小学校　校舎全景　昭和３０年代　川上小学校提供

これは校舎全景で、２階建ての本館と「でっぱり教室」がハッキリ写っています。この本館の中央に正面玄関があり、入ると職員室と校長室がありました。そして正面玄関の階段の脇に二宮金次郎の銅像が建っていました。

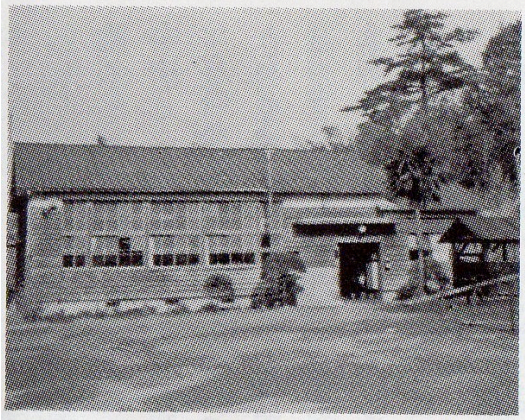
この校舎は古いので、廊下を歩くとギシギシ音がしました。そしていたずらっ子が２階の教室でバケツの水をこぼすと１階の教室は天井から雨が降ってきて大変でした。

既に本館の隣りには２階建ての新館が併設されており、当時としては珍しい防火シャッターで仕切られるようになっていました。更に校庭には、児童数の増加に対応するため、古い桜の木を伐ってプレハブの校舎２棟が建っています。

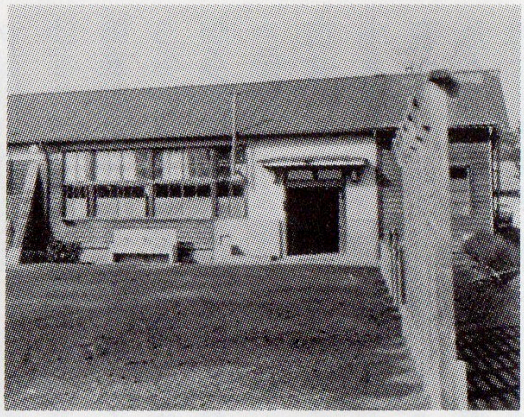
また本館の後ろには、中庭を挟んで更に古い木造の校舎も残っています。この古い校舎と本館は斜めの渡り廊下で繋がれており、途中に用務員室とトイレがありました。

この川上小学校の右隣りに写っているのがブリヂストン横浜工場の社員・家族寮（通称殿ヶ谷アパート）で、建屋は５棟あり２００世帯近くが住んでいた記憶があります。その広場には当時としては珍しかった社員用プールがあり、更に最前列の管理職用建屋の庭には戦争で亡くなった方の霊を弔う慰霊碑があり、学校の校庭脇から階段を昇って行かれるようになっていました。

この当時は、川上地区にはこの川上小学校しかありませんでしたので、柏尾町だけでなく、舞岡町の奥や平戸町の奥からも子ども達は皆歩いて通ってきました。１時間以上掛かった子どももいました。まだ足の弱い１年生や２年生がこんな遠くから通うのは大変なので、舞岡町には南部の分校（今の神奈中のバスターミナルの前の丘)、そして平戸町には北部の分校（植松寺跡）があり、３年生になると柏尾の本校に通いました。分校の写真がこれです。そして不思議なことに、遠くから歩いてくる子は、めったに遅刻せず、いつも遅刻をするのは学校の近くの子どもでした。



北部分校



南部分校

また、昭和初期の授業中の写真がありますのでご覧下さい。私たちの時代になると、さすがに着物の子はいなくなりましたが、戦争が終わって子どもが増えた時代ですので、一クラスは５０人で、同じ学年で６クラスまであり、卒業する頃には全校で１，２００人位生徒がいました。

昭和１２年の授業の様子

秋の運動会での全校整列の写真がありますが、校庭が子どもで溢れています。またその時の競技風景も紹介しておきます。

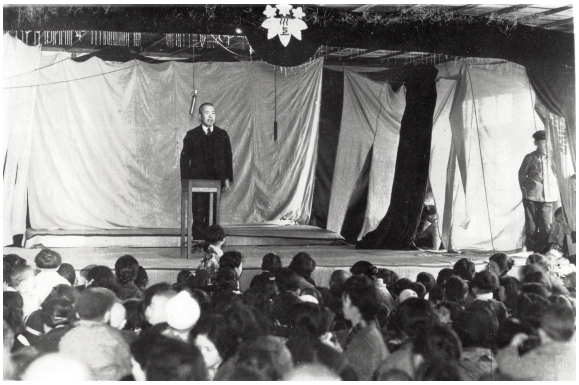
運動会でのラジオ体操　昭和３０年代　川上小学校提供

百足競走

同じく運動会の綱引き競技

鈴割りの垂れ幕に「民主日本」とあることから戦後の運動会風景と思われる
難波元副校長のアルバムから

当時は体育館や大きな講堂がありませんでしたので、3月の学年末になると、裏の古い校舎の教室の壁の仕切りを外して「ぶち抜き教室」を作り、町中から沢山の父兄が集まって盛大に学芸会が行われました。今と同じ笹りんどうの校章の下で、３５年間も校長を勤めた三橋先生が挨拶をされている写真と、着物姿の女の子たちの写真が見つかりました。



挨拶をされる三橋校長

着物姿の女の子たち　「茶箱」より

私たちの時代から、学校給食が始まりました。当時の給食のサンプル写真がこれです。当時は、脱脂粉乳という牛乳の美味しい成分を抜いた後の牛の餌になるような粉をアメリカから輸入し、お湯で溶いて牛乳のようにしたものが良く出ましたが、こげくさくまずくて、これで牛乳が嫌いになった子が沢山いました。また、注がれた給食は全部食べなければ先生から怒られましたので、ね

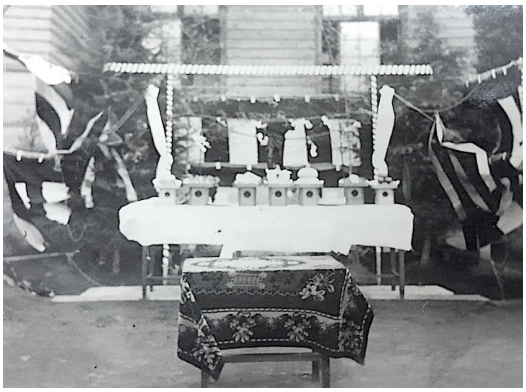
ぎの嫌いな私などは、涙を流して飲み込みました。

今では捕鯨禁止の世界的な流れから想像もできないことですが、昭和４０年代までは「鯨肉の竜田揚げ」が給食の定番だったと記憶しています。

最近、機会があって小学校の給食をいただきましたが、当時に比べとても美味しく、また自分の好きな量だけ食べるという仕組みになっており、時代の隔たりを痛感した次第です。

脱脂粉乳とシチューの給食
（レプリカ）

当時の小学校の正面玄関の脇に二宮金次郎の銅像が建っていました。これは昭和１４年に建てられたもので、その時の「像びらき式」の珍しい写真が難波先生のアルバムから出てきましたので紹介させていただきます。

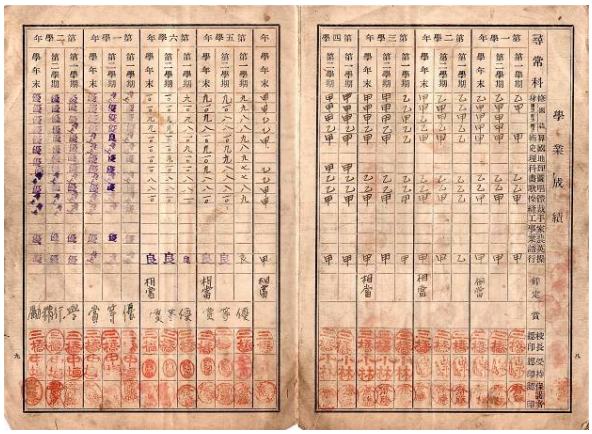

像びらき式　昭和１４年

二宮金次郎の銅像の前で記念撮影

そして、卒業する時には、いつもこの銅像と一緒に記念写真を撮りました。この銅像も新しい川上小学校が出来た時に、現在の正門の脇に移されました。

当時の「あゆみ」は、「通信簿」と言って、評価は優・良・可・不可、そして私たちの時代は１から５の５段階評価になりました。

昭和初期の通信簿も出てきましたのでご覧ください。


昭和初期の通信簿
柏尾町　齋藤繁助氏提供

川上小学校の校章は、当時も現在も変わりなく「笹りんどう」で、これは当時「鎌倉郡川上村」に学校があったことに由来しており、鎌倉武士の伝統を引き継いでいるものと言われています。現に鎌倉市の市章も同じ笹りんどうであることからその関連が窺えると思います。

笹りんどうの校章

さて、地域の発展と共に、昭和３０年代後半になると、子どもの数が更に増え、木造の校舎だけでは入りきれず、前述のように校庭の脇にプレハブの校舎を建てて教室にし、最後の頃は、午前の組と午後の組の二つに分けて授業をすることになりました。

昭和４４年創立当時の柏尾小学校
柏尾町　三浦朱美氏提供

しかし、それでも入りきれないため、新しい学校を作ろうという話になり、農家の皆さんに協力してもらい、当時山と畑だった場所をブルドーザーで平らにして二つの学校を作りました。秋葉に作った学校が川上小学校の名前を引き継ぎ、柏尾に出来た学校が柏尾小学校になりました。それが昭和４４年で、今から５０年前のことになります。

このように、川上小学校は長い歴史を持った伝統のある学校ですから皆で大事にし、これから１５０年、２００年と創立記念式が迎えられるように、地域で守っていけたら良いなと願っています。

（齋藤純一記）

## ４．宝物が一杯の「茶箱」

今回、このような古い写真や資料を皆さんに公開できるのは、一つには倉本校長の挨拶の言葉にもあるように、代々川上小学校に引き継がれてきた「宝の

箱＝茶箱」があったからですが、その写真類を１２頁の「小冊子」に纏められた先生（注：第２２代野瀬茂校長時代ですので校長自らの作成と想定されます）のファイルが残っていますのでその一端を紹介させていただきます。

この小冊子冒頭に次のような言葉があります。

> 学校の書庫に、大きな茶箱が一つあります。その蓋を開けてみると、大正時代から昭和までの写真など、川上小学校の歴史を物語る貴重な品々が出てきました。ほとんどが記念写真として残されており、写っている人たちはかしこまって顔もこわばっていますが、なかには授業風景や学芸会などの楽しそうな日常の学校風景が写っている写真もありました。
>
> 残念なことに、整理されていないことと、長い年月が経過する中で写真が台紙からはがれ裏書がないため何時の頃の写真か判別できないのが多いのです。そのため、写っている校長先生のお顔からおよその時代を推し量ることにしましたが、これも、三橋正太郎先生は大正時代から戦後まで、３０年以上も本校にいらっしゃいましたので正確には判断できませんでした。
>
> １２０年の歴史を持つ川上小学校ですが、昭和４４年に柏尾町から秋葉町へ移転したこともあり、意外と創立当時のものが残っていません。この貴重な資料が少しでも多くの人の目に触れ、川上小学校の長い伝統を見ていただけたらなと考え、ここにささやかではありますが小さな冊子とさせていただきました。

この小冊子には上述の表紙に続いて１１頁の本文があり、次のように纏められています。

本文

茶箱

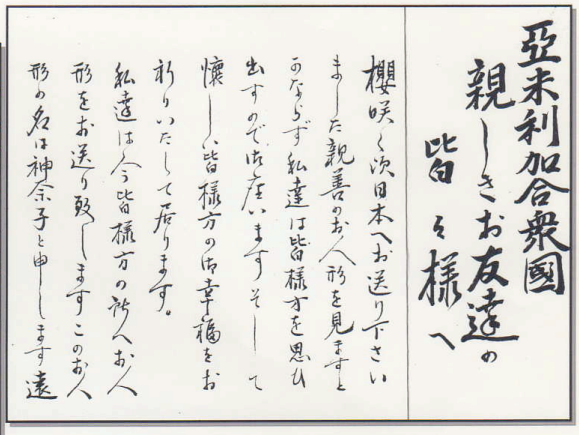
１頁　オレゴン州から届いた手紙（日米友好の「青い目の人形」の返礼）
２頁　「７つ星」（「７つ星」は子ども達の文集。第１８号「泣いた妹」）
３頁　上棟祭（昭和７年　校舎増築時の上棟祭の木札）
４頁　我が　学び舎（昭和４５年当時の校舎全景と見取り図）
５頁　風雪に耐えて（古い校舎の写真類）
６頁　１枚の写真（明治４３年、大正４年の卒業写真）
７頁　１枚の写真（昭和２年、昭和１１年の修学旅行、卒業写真）
８頁　１枚の写真（昭和１４年　卒業記念アルバムより）
９頁　１枚の写真（昭和１５年　入営写真、職員集合写真）
１０頁　１枚の写真（戦後間もないころの運動会の写真）
１１頁　１枚の写真（年代不明　低学年の子ども達の写真）

できれば全頁を掲載したいのですが誌面の関係上、以下の２頁を紹介させていただきます。

# オレゴン州から届いた手紙

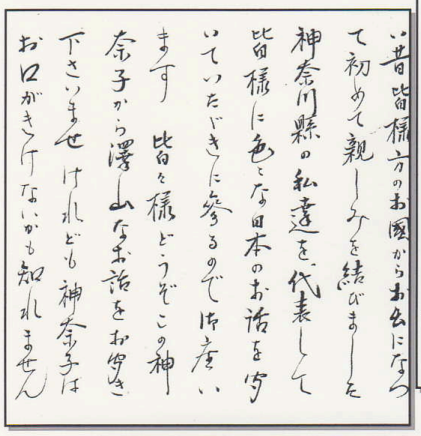
日米友好を願ってアメリカから贈られた「青い目の人形」の返礼として、和服姿の答礼人形横浜大桟橋から旅立っていきました。１９２７年、昭和２年のことです。

「青い目の人形」は全国に１２７００体が贈られ、そのうちの１６６体が神奈川県に贈られました。

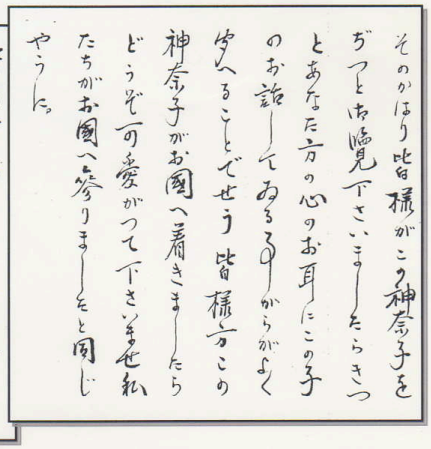


亞米利加合衆國
親しきお友達の
皆さま様へ

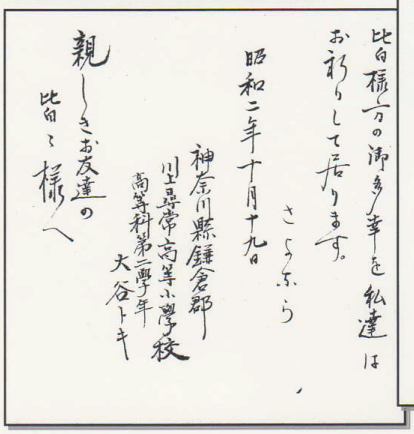
櫻咲く次日本へお送り下さいまして親善のお人形を見ますとのならず私達は皆様方を思ひ出すのでございますそして懐しい皆様方の御幸福をお祈りいたして居ります。
私達は今皆様方の御へお人形をお送り致しますこのお人形の名は神奈子と申します遠



遠皆様方のお國からお出になって初めて親しみを結びましたを神奈川縣の私達を代表して皆様に色々な日本のお話を守いていただきに參るのでございます　皆さ様どうぞこの神奈子から澤山なお話をお守き下さいませ　けれども神奈子はお口がきけないかも知れません



そのかはり皆様がこの神奈子をじっとご御覧下さいましたらきっとあなた方の心のお耳にこの子のお話しをしてゐるのがらがよく聞へることでせう　皆様方この神奈子がお國へ着きましたらどうぞ一の愛がって下さいませ私たちがお國へ參りましたと同じやうに。



皆様方の御多幸を私達はお祈りして居ります。
さようふう
昭和二年十月十九日
神奈川縣鎌倉郡
川上尋常高等小學校
高等科第二學年
大谷トキ
親しきお友達の
皆さま様へ

アメリカ・オレゴン州の美術館で県内の小学生がアメリカの子どもたちにあてた手紙が見つかりました。それが、「高等科第二学年　大谷トキ」さんの手紙です。もちろん「青い目の人形」は川上小学校に残っていませんが、大谷さんの「神奈子はお口がきけないかもしれません　そのかわり　皆様がこの神奈子をじっと御覧下さいましたら　きっとあなた方の心のお耳にこの子のお話している事がらが　よく聞こえてくるでしょう」という心遣いが心に残ります。

平成１２年１０月に、この大谷さんの手紙の写しが学校に届きました…

# 七つ星

あとがき　より

「七つ星」という文集名は、川上小学校の学区域が旧鎌倉郡川上村全域であり、その川上村の字名が、舞岡・下柏尾（現柏尾町）・上柏尾・前山田（現前田町）・後山田（現川上町）・平戸・品濃の七つあったことに由ったのである。

「七つ星」は、大正１３年、関東大震災の翌年に第１号が発行されている。それから毎年７月と１２月、各学年ごとに謄写印刷し、全学年をまとめて製本し、夏休みや冬休みを機に全児童の家庭に回覧していたのである。

昭和１５年頃から、時局の切迫、物資の欠乏その他の諸事情で、いつの間にか発行されなくなったのはやむを得ないことであったが、実に惜しいことである。現在残っている「七つ星」は昭和１４年第３１号までである。

所収の児童作品は、いかにも稚拙なものが多く、今日の児童の作文の優秀さに比ぶべくもないけれど、いずれも素朴な表現の中に、純農村であった川上村の風土、そこに生活する児童たちの生活感情がしのばれるものである。また、あれこれと工夫を凝らして趣を変えている編集には、時局の切迫にからむ時代の要請と綴り方指導上の混迷と苦悩を知ることもできるのである。

当時、川上の綴り方教育は、かなり注目されていた。「年刊全国児童文集」に収録された作品や綴り方指導書の参考文例として採用された作品のほか、多くの綴り方・児童誌・俳句が「綴り方倶楽部」などの雑誌に掲載されたことがあった。

合本「七つ星」は川上小学校の宝といっても過言ではない。校史の資料として、教育研究の資料として、あるいは旧川上村の郷土資料として、まことに貴重なものであろうと思う。永久に保存し、広く活用されることを望んでやまない。

昭和５７年１１月１５日　中垣　隆治

「七つ星」は子どもたちの作文集です。昭和２年から１４年までの「七つ星」を、黒厚紙表紙３冊の合本に製本しました。

## ５．難波副校長について

勤続３５周年表彰を受けた
難波博副校長

先に川上小学校で３５年間も校長を務められた三橋正太郎先生について触れましたが、もう一人忘れてはならない人が、三橋校長を助け川上小学校の校務を永年切り盛りされてきた難波博副校長です。

この難波副校長について「卒業５０年　神師　大正１４年３月卒業生」という冊子で追想文がありますので紹介させていただきます。この「神師」というのは、昔の鎌倉師範学校のことで、「大正１４年卒業同期会」が昭和４９年１０月に発行した記念誌の中で同窓の山本宗一氏が「難波博君の追想」という文題で、紹介されております。この冊子は難波副校長の子息、難波健吾氏（現踊場地区青少年指導委員副会長）からお借りした大切なものであることも付け加えておきます。

**難波博君の追想**

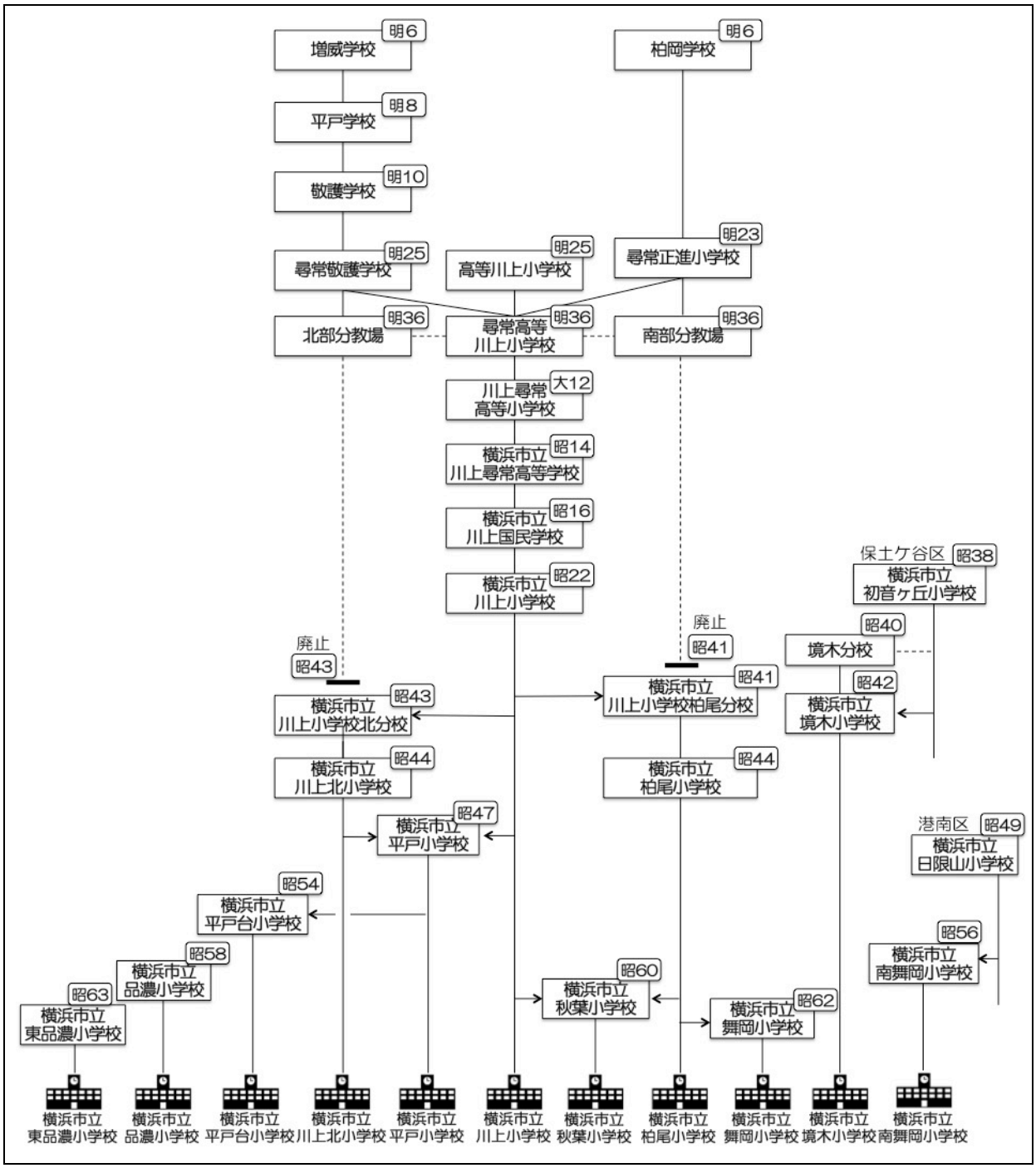
昭和３９年１０月１０日、忘れもしないこの日は東京オリンピックの開会式の日であった。難波博君はこの日持病の喘息が悪化し、遂に帰らぬ人となってしまった。国中を挙げてオリンピックの盛儀に酔いしれている時に涙を呑んで難波君を送ったことが、つい昨日のことのように思い出される。

難波君と親しく往き来するようになったのは終戦直後のことである。難波君は卒業以来３８年間川上小学校に勤続していた。彼の辛抱強さはこのことでもわかるように誠実一筋に叩き上げてやがて副校長の職に就いた。しかし彼には持病の喘息があったが、毫も暗い影のない人で職員間には人望があり、父兄からは学校の「主」と言われて尊敬され、一日も早く校長職に就くことを願っていた。思うに病弱の身で副校長の職責が過重であったのかもしれない。彼は生来才気煥発。英語を交えては会話することに長じ、いつも私どもを笑わせていた。また常に新知識を身につけて、論旨整然と自分の意見を述べるので、私などいつも啓蒙されることが多かった。

彼には５人の男の子がある。私の子供達とも学校の友達同志で親子ぐるみ親しくしあっていた。時に訪ねてくると私の子供たちもよくなつき「難波のおじさん」と膝にもたれかかって離れなかった。現在ではそれぞれ成人して離れ離れになってしまったし、親同志もつい疎遠に打ち過ぎている。現在子供さんたちは立派な社会人として働いており孫たちも大勢いる。苦労しっぱなしだった難波君が、今この幸福な一家のことも知らず幽久の眠りについている。・・・難波君の墓所は戸塚から保土ヶ谷のトンネルに入ろうとする左側の山ふところにある。（編者注　前田町　本應山蓮久寺）若し心ある士があったら彼を思い出しその冥福を祈ってやって欲しい。（山本記）

## ６．旧川上地区の小学校群について

### （１）旧川上地区の小学校の分離独立の流れ




### （２）旧川上地区の小学校群

現在、旧川上地区に存する小学校群の概要を、創立順に各校のホームページを基に紹介すると以下のようになります。（編集内容は「編纂委員会」の責によります）

## ①　横浜市立川上小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 明治 25 年 11 月 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区秋葉町 203-2 | | |
| 電　話 | 045-811-9345 | FAX | 045-713-5961 |
| 校　長 | 倉本　惠 | 副校長 | 船山　道太 |
| 児童数 | 305 名（平成 30 年 4 月現在） | | |

平成 30 年に創立 127 年を迎える本校は、学校の位置は途中で移動していますが、近隣には本校卒業生が多く在住し、協力的な地域や保護者に支えられています。特別合唱クラブは TBS コンクールで日本一の実績があり、全校児童の歌声がとてもきれいです。

## ②　横浜市立境木小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 42 年 4 月 1 日 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区平戸三丁目 48 番地 1 号 | | |
| 電　話 | 045-822-8670 | FAX | 045-826-1050 |
| 校　長 | 樋代　洋子 | 副校長 | 遠山　松雄 |
| 児童数 | 510 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

平成 29 年度に創立 50 周年を迎えました。
学校目標「チャレンジアップ！
かがやく自分」の実現に向けて、日々、子どもたちが様々なことにチャレンジしています。

## ③　横浜市立柏尾小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 44 年 4 月 1 日<br>（昭和 41 年　川上小学校柏尾分校） | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区柏尾町 1317 番地 | | |
| 電　話 | 045-822-0277 | FAX | 045-826-1808 |
| 校　長 | 栗原　繁昌 | 副校長 | 藤田　敏明 |
| 児童数 | 603 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

地域の支援でホタルが飛び、田んぼや畑を使った体験学習を進めています。縦割り活動も盛んです。

### ④　横浜市立川上北小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 44 年 4 月<br>（昭和 43 年川上小学校北分校） | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区川上町 63-1 | | |
| 電　話 | 045-822-0845 | FAX | 045-826-1175 |
| 校　長 | 森山　豊実 | 副校長 | 志賀　優子 |
| 児童数 | 808 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

校章の由来は、
りんどうの花を川上北小学校の子どもたち、３枚の葉を「知育」「徳育」「体育」の営みを表しています。

### ⑤　横浜市立平戸小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 47 年 4 月 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区平戸町 542 | | |
| 電　話 | 045-821-2329 | FAX | 045-826-2005 |
| 校　長 | 菅原　久忠 | 副校長 | 小山内　和正 |
| 児童数 | 592 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

本校は果樹園や旧東海道など落ち着いた雰囲気の中にあり、ペア学年交流など異学年の関わりを大切にした学習に取り組んでいます。

### ⑥　横浜市立平戸台小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 54 年 9 月 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区平戸町 1165 番地 | | |
| 電　話 | 045-824-4351 | FAX | 045-826-2007 |
| 校　長 | 柴﨑　美佐 | 副校長 | 平島　幸江 |
| 児童数 | 209 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

一学年以外は単級の小規模ですが、校舎裏には自然豊かな『ほたるの里』があり、子どもたちものびのびと活動しています。

## ⑦　横浜市立南舞岡小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 56 年 4 月<br>（ 日限山小学校より分かれ、開校） | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区南舞岡四丁目 15 番 1 号 | | |
| 電　話 | 045-823-4120 | FAX | 045-826-2030 |
| 校　長 | 平石　英一 | 副校長 | 熊谷　眞理子 |
| 児童数 | 250 名（平成 30 年 5 月 1 日現在） | | |

本校は、港南区と隣併せに位置する児童２５０人の小規模校で日限山小・中学校と小・中一貫連携繋がりを深めています。又、舞岡公園に隣接し、田んぼ学習など特色有る教育活動を実施しています。児童数が少ない利点を活かし、教員と児童の関わりが深く家族愛溢れる学校です。

## ⑧　横浜市立品濃小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 創立：　昭和 58 年 4 月 1 日 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区品濃町 504 番地の 1 | | |
| 電　話 | 045-824-0651 | FAX | 045-826-2183 |
| 校　長 | 坂井　暢 | 副校長 | 小坂　佳 |
| 児童数 | 802 名　（平成 30 年 4 月 5 日現在） | | |

本校の子どもたちは、知的好奇心が強く、自ら進んで学習に取り組む姿が見られます。また、保護者や地域の方はとても協力的で、多くの方々に支えられて学校が成り立っています。

## ⑨　横浜市立秋葉小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 60 年 4 月 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区秋葉町 392 番地 1 号 | | |
| 電　話 | 045-811-6771 | FAX | 045-812-2915 |
| 校　長 | 垣崎　授二 | 副校長 | 佐久間　宣朝 |
| 児童数 | 817 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

横浜市唯一の小中併設校であり、「開く・つなげる・ともに」の３つをキーワードにして多様な教育活動を行っています。

### ⑩　横浜市立舞岡小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 62 年 11 月<br>（ 柏尾小学校より分かれ、開校） | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区舞岡町 534 番地 | | |
| 電　話 | 045-824-7327 | FAX | 045-826-2227 |
| 校　長 | 小菅　直美 | 副校長 | 近藤　賀代 |
| 児童数 | 308 名　（平成 30 年 5 月　1 日現在） | | |

地域に支えられたさまざまな「ふれあい活動」を軸に、＜川と緑と太陽と笑顔あふれる舞岡＞を目指し、３００余名の舞岡っ子が元気一杯の学校生活を送っています。

### ⑪　横浜市立東品濃小学校

| | | | |
|---|---|---|---|
| 創　立 | 昭和 63 年度 4 月 1 日 | | |
| 住　所 | 横浜市戸塚区品濃町 559 番地 | | |
| 電　話 | 045-824-5831 | FAX | 045-826-2251 |
| 校　長 | 田中三代子 | 副校長 | 加藤　静 |
| 児童数 | 516 名（平成 30 年 4 月 1 日現在） | | |

東品濃小の校名の由来
母体校の川上北小の東部に位置し、さらに品濃町の東部にあたり東から太陽が昇るように栄えていくという願いをこめて、東品濃小学校と命名しました。

旧川上地区には上記の小学校の他に、横浜市立舞岡中学校、同　秋葉中学校、同　平戸中学校、同　境木中学校、県立舞岡高等学校がありますが、本誌では紙面の関係上、小学校群のみの掲載とさせていただきました。

（編纂委員会）